

そんし ちけいへん
孫子「地形篇」



52

そんし ちけい 通ずるもの 支るもの 隘きもの 陰な
孫子曰く、地形には、通ずる者あり、挂ぐる者あり、支る者あり、隘き者あり、陰な
る者あり、遠き者あり。

われもつゆ かもつき すなわ つう
我れ以て往くべく彼れ以て来たるべきは 曰ち通ずるなり。通ずる形には、先ず高陽に居り、糧道を利して以て戦え
ば、則ち利あり。以て往くべきも以て返り難きは 曰ち挂ぐるなり。挂ぐる形には、敵に備え無ければ出でてこれに勝
ち、敵若し備え有れば出でて勝たず、以て返り難くして不利なり。我れ出でて不利、彼れも出でて不利なるは、曰ち支る
るなり。支るる形には、敵 我れを利すと雖も、我れ出づること無かれ。引きてこれを去り、敵をして半ば出でしめて
これを撃つは利なり。隘き形には、我れ先ずこれに居れば、必らずこれを盈たして以て敵を待つ。若し敵先ずこれに居り、
盈つれば而ち従うこと勿かれ、盈たざれば而ちこれに従え。陰なる形には、我れ先ずこれに居れば、必らず高陽に居
りて以て敵を待つ。若し敵先ずこれに居れば、引きてこれを去りて従うこと勿れ。遠き形には、勢い均しければ以て戦
いを挑み難く、戦えば而ち不利なり。凡そ此の六者は地の道なり。将の至任にして察せざるべからざるなり。

ゆえ へい はし もの
故に、兵には、走る者あり、
ゆる もの
弛む者あり、
おちい もの
陷る者あり、
くず もの
崩るる者あり、
みだ もの
乱るる者あり、
に もの
り、北ぐる者あり。

およころくしゃてんわさわ
 凡そ此の六者は天の災いにあらず、将の過ちなり。夫れ勢い均しきとき、一を以て十を撃つは曰ち走るなり。卒の
 つよりよわすなわゆる
 強くして吏の弱きは曰ち弛むなり。吏の強くして卒の弱きは曰ち陥るなり。大吏怒りて服せず、敵に遭えば懃みて自
 たなかしょうそいうし
 ら戦い、将は其の能を知らざるは、曰ち崩るるなり。将の弱くして敵ならず、教道も明らかならずして、吏卒は常な
 へいつら
 く、兵を陳ぬること縦横なるは、曰ち乱るるなり。将敵を料ること能わず、小を以て衆に合ひ、弱を以て強を撃
 へいせんぼうすなわに
 ち、兵に選鋒なきは、曰ち北ぐるなり。凡そ此の六者は敗の道なり。将の至任にして察せざるべからざるなり。

夫れ地形は兵の助けなり。

敵を料つて勝を制し、陰夷・遠近を計るは、上將の道なり。此れを知りて戦いを用なう者は必らず勝ち、此れを知らずして戦いを用なう者は必らず敗る。故に戦道必らず勝たば、主は戦う無かれと曰うとも必らず戦いて可なり。戦道勝たずんば、主は必らず戦えと曰うとも戦う無くして可なり。故に進んで名を求めず、退いて罪を避けず、唯だ民を是れ

保ちて而して利の主に合うは、国の宝なり。

55

卒を視ること嬰兒の如し、故にこれと深谿に赴むべし。

孫子十
地形篇 3

卒を視ること愛子の如し、故にこれと俱に死すべし。厚くして使うこと能わず、愛して令すること能わず、乱れて治むること能わざれば、譬えば驕子の若く、用うべからざるなり。

56

吾が卒の以て撃つべきを知るも、而も敵の撃つべからざるを知らざるは、勝の半ばなり。

敵の撃つべきを知るも、而も吾が卒の以て撃つべからざるを知らざるは、勝の半ばなり。敵の撃つべきを知り吾が卒の以て撃つべきを知るも、而も地形の以て戦うべからざるを知らざるは、勝の半ばなり。故に兵を知る者は、動いて迷わず、挙げて窮せず。故に曰わく、彼れを知りて己れを知れば、勝乃ち殆うからず。地を知りて天を知れば、勝乃ち全うすべし。